

教育と研究の両面から総合情報処理センターへ期待していること

農学生命科学部 張 樹槐

zhang@hirosaki-u.ac.jp

1 はじめに

以前 21 世紀教育の「情報」という必修科目と学部専門教育の「コンピュータ演習」を担当していた関係で、前後期とも総合情報処理センターをフルに利用していたが、その後の教養教育への名称変更などに伴う科目削減で、全学の情報関連科目の担当でなくなり、現在後期に実施している「コンピュータ演習」を定期的にセンターで行っているだけになる。それ以外、基礎ゼミ、研究室のゼミや大学院の授業などで、農学生命科学部のサテライト教室を不定期で利用することもある。

研究の面においては、直接センターの情報機器を利用するというより、ネットワークを通じて、メールや検索等々で無意識的にほぼ毎日接している。

今回、以上の両面から日頃感じたこと、ぜひ検討してほしいことを述べさせていただきます。

2 教育の面から

教養教育の「情報」科目が必修でなくなった主な理由は高校での必修化と聞く。しかし、所属学科 2 年生の「コンピュータ演習」で接した学生などのレベルを見る限り、多くの学生が基礎的な知識さえマスターできているとは到底言えない状況にあると感じる。例えば、ファイルの拡張子がどんな役目であるかと聞くと、多数の学生が答えられないでいる。実験系の場合、これを少々意識しないと、卒業研究などで計測機器などから出力されたデータファイルの管理などで大変困惑することになる。学生によっては、大学の 4 年間、本人が情報関連の科目を選択しない場合、情報リテラシーに関連した講義に一度も関わることなく、卒業して社会に出てしまう。

また、経費削減という観点から、各学部を設置しているサテライト教室を整理したいとの提案があった。確かに、サテライト教室の稼働率が低いとの問題点があるけれど、少人数の基礎ゼミや研究室ゼミなどで利用する際、身近にあること、統一した操作性が何より重要となる。

言うまでもなく益々重要となる情報関連の基礎知識を学生達に身近に体験していただけるように、教養教育科目の増設や気軽に利用できるパソコンなど情報機器の合理的な設置をぜひご検討願いたい。

3 研究の面から

ネットワークを通じた利用がほとんどであるため、個人的に重要と思われるのは、①海外を含め、学外での利用利便性、②セキュリティ対策の向上、③トラブル対応の迅速化である。

学外での利用利便性については、具体的に国内外での出張時のメール確認とクラウドサービスになる。例えば、セキュリティの関係で弘大クラウドには海外から接続できない設定となっており、Office 365 の OneDrive も大変煩雑になってきた。

セキュリティ対策とトラブル対応については、スタッフの皆さんのご努力でかなり改善された。しかし、その反面、認証などの手続きが煩雑になり、教員によってはしばらくメールが受信できないとの話も聞いた。セキュリティとの兼ね合いで仕方がないことではと思うが、ぜひ情報の周知徹底と一層のサポート支援をお願いしたい。

4 おわりに

総合情報処理センターで提供されているサービスに大いに満足している中、改善して頂きたいことをいくつか述べてさせて頂いた。センターの皆さんもより良いサービスを提供していくために、職員一人ひとりに協力してほしいことが今後も生じるでしょう。その際に、ぜひ丁寧な説明とサポートを引き続きお願いする。